

タイトル: 沖縄の音で遊ぶ

島妻(しまうとぅ)チーム

言葉にはこんな可能性がある？！

- ・ 言葉は文化のタイムカプセル
- ・ 自己肯定感の土台になる
- ・ 多様性は“音”から生まれる
- ・ 産業・観光・ブランド価値
- ・ おじいおばあとの橋

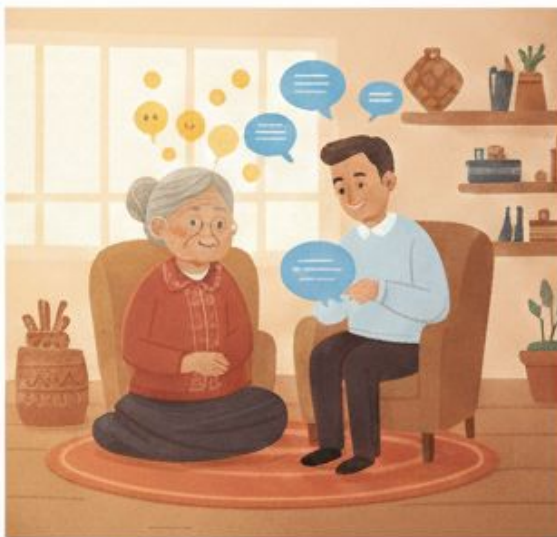


しまくとぅばの絶滅が進んでいる？

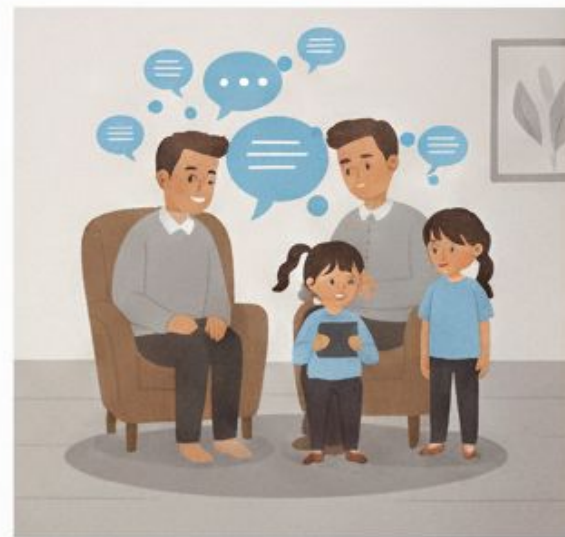
沖縄の言葉が消えつつある



昔は
聞けるし、話せた



だんだんと
聞けるけど、話せない



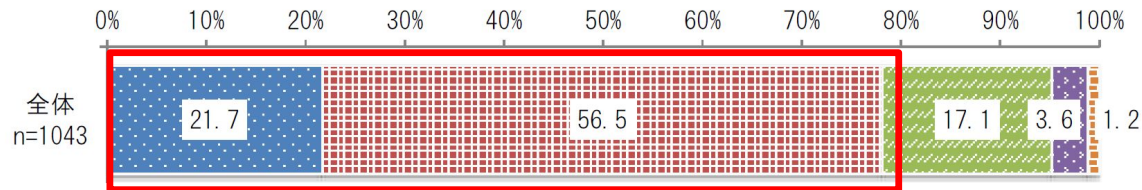
そして
知らないなので、話せない

子どもたちとしまくとぅばの接点が減少

しかし

使い方がわからないし、使う機会がない！

みんな子どもたちには『しまくとぅば』を使って欲しいと考えている



		(%)				
		是非、使えるようになって欲しい	できれば、使えるようになって欲しい	あまり、使えなくてもよい	まったく、使えなくてもよい	無回答
年齢	10代 n=34	29.4	41.2	20.6	5.9	2.9
	20代 n=85	18.8	49.4	27.1	3.5	1.2
	30代 n=152	23.0	51.3	19.7	5.9	-
	40代 n=175	26.3	53.1	14.9	5.7	-
	50代 n=196	20.4	58.7	17.3	2.6	1.0
	60代 n=215	19.1	61.4	14.9	2.3	2.3
	70歳以上 n=171	18.1	63.2	14.6	2.3	1.8

子どもたちが「しまくとぅば」を使うようになることへの意識

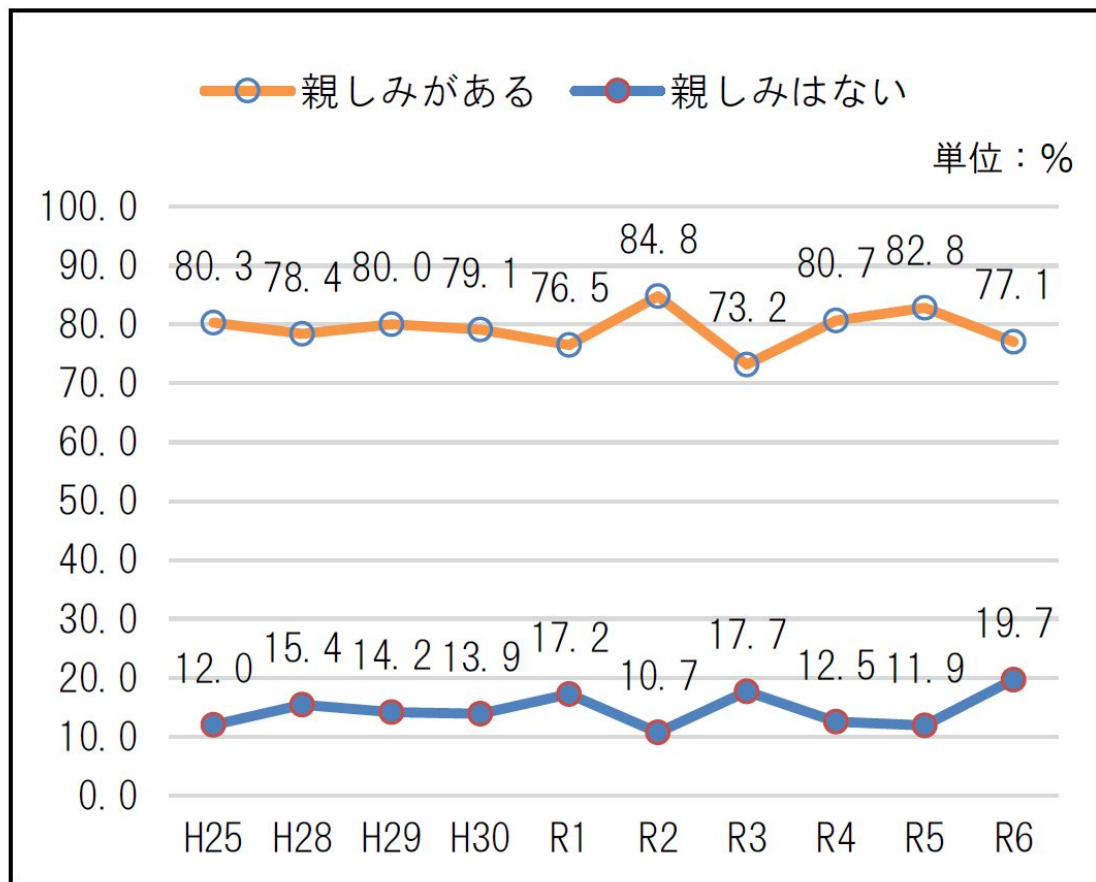
世代を追うごとに『しまくとぅば』を理解できる人は減少

(%)

		よくわかる	ある程度わかる	あまりわからない	まったくわからない	無回答
年齢	10代 n=34	-	23.5	55.9	20.6	-
	20代 n=85	3.5	37.6	49.4	9.4	-
	30代 n=152	4.6	49.3	38.2	7.9	-
	40代 n=175	4.0	54.3	37.1	4.6	-
	50代 n=196	6.1	58.2	29.1	6.6	-
	60代 n=215	20.5	65.1	12.1	2.3	-
	70歳以上 n=171	40.4	52.0	6.4	-	1.2

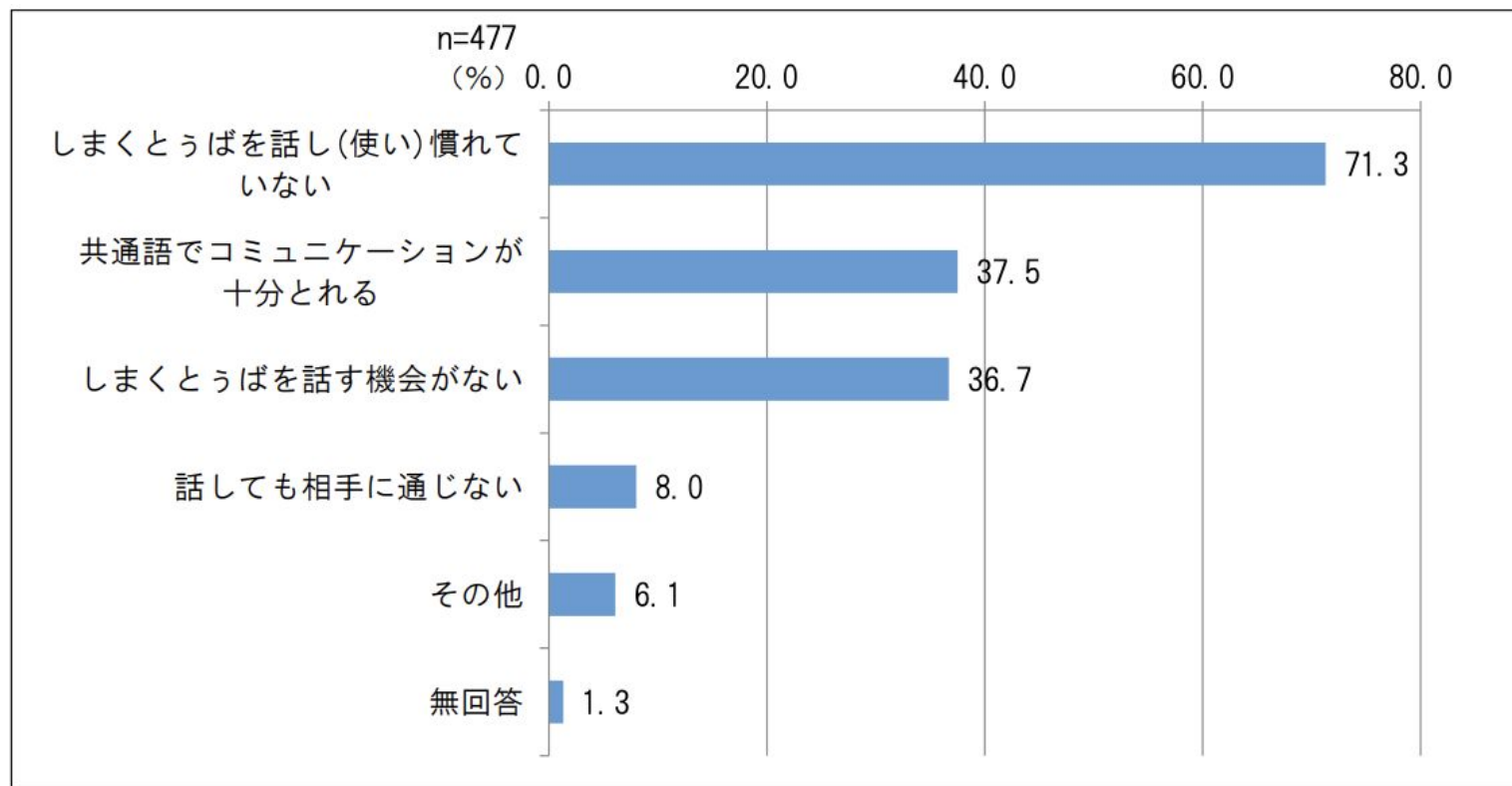
「しまくとぅば」に対する理解度(年齢別)

「しまくとぅば」に親しみを持つ県民の割合が減少



「しまくとぅば」に対する親しみ

『しまくとぅば』は慣れないと使われない



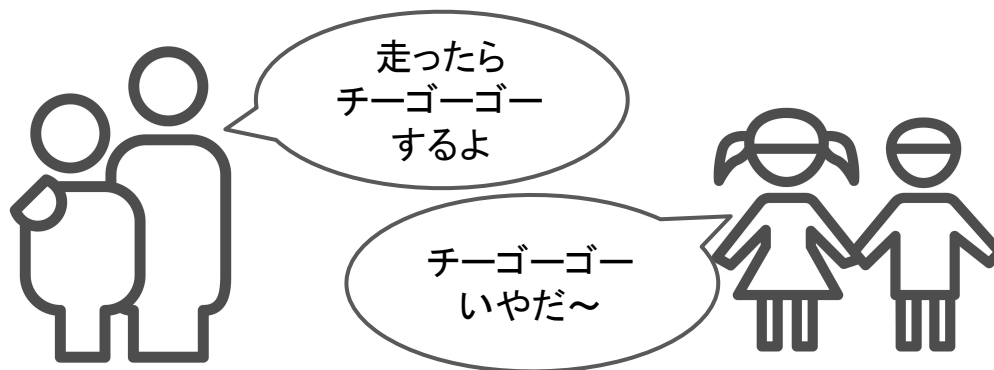
「しまくとぅば」を話さない理由

使ってほしい大人たち × 使い慣れたら使いたい子供達



使い方がわかって、使う機会があれば話せるようになるのでは？

- 子供に話しかける時にオノマトペをよく使う
- 言語を学ぶきっかけにピッタリ！
- 擬音、擬態語であるオノマトペに間違いはない！というハードルの低さ



使う場面と音がセットで理解されやすいカルタ遊びが良いのでは？

じゃ～、まずは！

沖縄の音で遊ぼ～



**日常生活の中でしまくとうばを使って欲しい大人と
使いかたがわからない子供の接点を作る！**

みんなで作るカルタ

しまうとぅカルタ(デモ版)

つくる

あそぶ

① 写真を撮る
(=カルタの取り札)

② 撮った写真に合う
オノマトペを
ネイティブに話してもらおう
(=カルタの読み札)

③ 読み札を再生

“あちこーこー”

④ 正解の札を選択！



日常生活の中の何気ない一枚が
世代間のコミュニケーションになる

みんなで作るカルタ

カードを作る



① 写真を撮る



② 録音する

カードを保存

カルタであそぶ

読み札を再生

さーふーふー



これかな？

録音、画像をユーザーが集める
素材を集めてオリジナルカルタができる

日常生活の中の何気ない一枚が
世代間のコミュニケーションになる

みんなで作るカルタ

おじ～、わらとーんの写真とるから



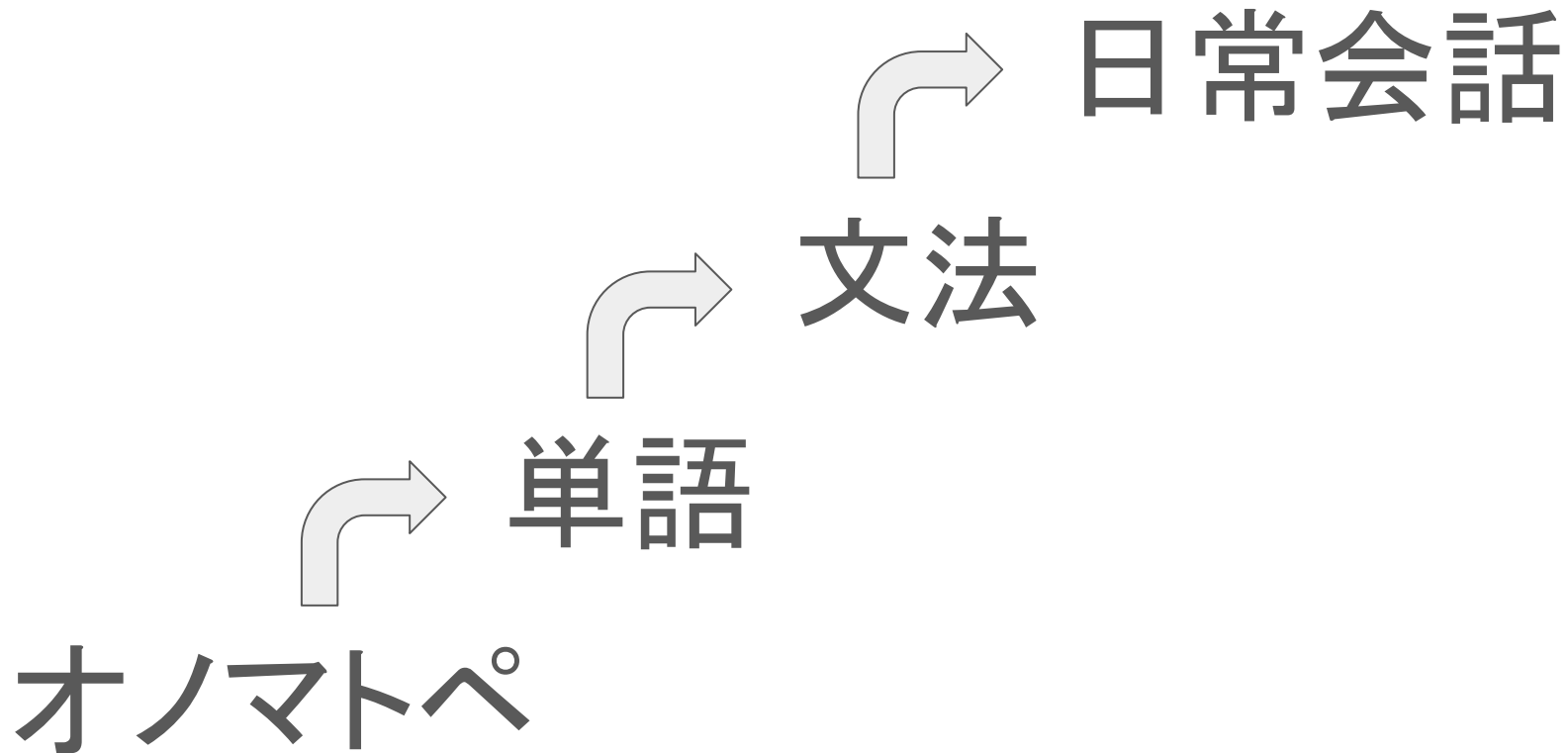
わらてい、くみそーり！



ちゃーやが！

録音、画像をユーザーが集める
素材を集めてオリジナルカルタができる

無理のないステップで ”しまくとらば”を習得していく



もちろん、使い方は自由！
自由な発想で楽しもう！！

しまくとぅカルタ、例えばこんな活用法

- 夏休みの宿題—夏の風物詩のしまくとぅばを集め、大人から教えてもらう
- 敬老の日—おじー、おばーの写真を取り、しまくとぅばで好きなことを教えてもらう
- しまくとぅばの地域性を学ぶ—リュウキュウキノボリトカゲの名前を調べる
- クイズを作る—これ、なんていうの？

企画まとめ

しまくとぅばの使い方がわからないし、使う機会がないという課題
に対して

宜野湾市の「大人、おじい・おばあ(ネイティブ)」と「子どもたち」
が、スマホを片手に村内の風景や日常を撮影・録音し、世界に一
つだけの「宜野湾オリジナルしまくとぅばかるた」を共同制作・プレ
イするシビックテック・プロジェクトです。

本企画のコア・バリュー

項目	内容
ハードルの低さ	難しい文法ではなく、「チーゴーゴー(擦り傷)」などのオノマトペに特化することで、誰でも今日から使える。
多世代交流	子どもが「カメラマン」、シニアが「声優」となり、 共同作業を通じて自然なコミュニケーション を生む。
シビックテック性	ユーザー(住民)自身が素材を作る UGC型システム 。地域の数だけバージョンが存在し、自走する。

フェーズの展開ロードマップ

シビックテックとして、スモールスタートから段階的に拡大します。

- **Phase 1:【特定地域モデル】宜野湾市で実施**
 - 公民館でのワークショップを開催。「あちこーこー(熱い)」等のオノマトペを軸に、地域の風景を撮影し、かるたの素材を収集・アプリ化。
- **Phase 2:【データ蓄積・公開】オープンデータ化**
 - 収集した「音」と「画像」を地域の文化資産としてデータベース化。他の市町村や開発者が利用できるAPIや素材集として公開。
- **Phase 3:【全県・観光展開】しまくとぅば MAP連携**
 - GPSと連動し、その場所に行かないと手に入らない「ご当地かるた札」機能を実装。観光客も巻き込んだ文化体験型コンテンツへ。



沖縄の音で遊ぶ

日常生活の中の何気ない一枚が
世代間のコミュニケーションになる

みんなで作る思い出カルタ

カルタであそぶ

読み札を再生

いいやんべー



これかな？

録音、画像をユーザーが集める
素材を集めてオリジナルカルタができる

日常生活の中の何気ない一枚が
世代間のコミュニケーションになる

みんなで作る思い出カルタ

カルタであそぶ

読み札を再生

にんとーん



これかな？

録音、画像をユーザーが集める
素材を集めてオリジナルカルタができる

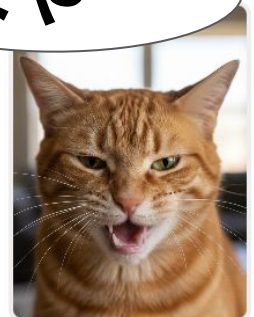
日常生活の中でしまくとうばを使って欲しい大人と
使いかたがわからない子供の接点を作る！

同じカルタでも音声を変えることで しまくとうばを覚えられる

カルタであそぶ

読み札を再生

まやー



これかな？

日常生活の中でしまくとうばを使って欲しい大人と
使いかたがわからない子供の接点を作る！

みんなで作るカルタ 同じカルタでも音声を変えることで しまくとうばを覚えられる

カルタであそぶ

読み札を再生

あぎじゃびよー



これかな？

写真からのインスピレーションから
思いもよらない”しまくとうば”と出会える

カードを作る



① 写真を撮る



② 録音する

カードを保存

カルタであそぶ

読み札を再生



あちこー
こー

これかな？

録音、画像をユーザーが集める
素材を集めてオリジナルカルタができる

(%)

		よくわかる	ある程度わかる	あまりわからない	まったくわからない	無回答
年齢	10代 n=34	-	23.5	55.9	20.6	-
	20代 n=85	3.5	37.6	49.4	9.4	-
	30代 n=152	4.6	49.3	38.2	7.9	-
	40代 n=175	4.0	54.3	37.1	4.6	-
	50代 n=196	6.1	58.2	29.1	6.6	-
	60代 n=215	20.5	65.1	12.1	2.3	-
	70歳以上 n=171	40.4	52.0	6.4	-	1.2

(%)

		是非、使えるようになって欲しい	できれば、使えるようになって欲しい	あまり、使えなくてもよい	まったく、使えなくてもよい	無回答
年齢	10代 n=34	29.4	41.2	20.6	5.9	2.9
	20代 n=85	18.8	49.4	27.1	3.5	1.2
	30代 n=152	23.0	51.3	19.7	5.9	-
	40代 n=175	26.3	53.1	14.9	5.7	-
	50代 n=196	20.4	58.7	17.3	2.6	1.0
	60代 n=215	19.1	61.4	14.9	2.3	2.3
	70歳以上 n=171	18.1	63.2	14.6	2.3	1.8

日本の危機言語

ユネスコによる

奄美語 …

… 国頭語

… 沖縄語

… 宮古語

与那国語

… アイヌ語

出典)

2010年、UNESCOにより消滅危機言語に指定